

環境ホルモン物質評価見直し 環境省



環境省は11月30日、98年に選定した内分泌かく乱物質(環境ホルモン)と疑われる67物質のリストを廃止し、第三者機関に影響を評価すべき物質を改めて選んでもらう方針を決め、来年度から実施することにしました。同省調査で、67物質中3物質が魚類の雄を雌化させる作用を持つことが判明しましたが、ほ乳類への作用は確認されていません。一方、化学工業界は「リスト化された物質は、明白な根拠がないまま環境ホルモン扱いされた」と批判していました。

67物質は、過去の論文などを参考に、優先的に検討すべき物質として選ばれました。予備調査で影響はなしと判断された2物質を除く65物質を対象に魚類のメダカとほ乳類のラットを使い、餌や水に対象物質を混ぜて影響を調べました。メダカでは24物質で試験が終了、工業用洗剤などに使われるノニルフェノールと4-t-オクチルフェノール、食器などに使う樹脂の原料になるビスフェノールA - の3物質で雄が雌化する作用が確認されました。しかし、この3物質を含む22物質の影響をラットで調べたところ、環境ホルモン作用は確認されませんでした。

これとは別に現在約10物質試験中で、残り約30物質は、新たに設置する第三者機関で調査の必要性などを再検討してもらう予定です。

第三者機関は専門家や市民団体、業界団体の代表で構成し、毎年数種類ずつ調査すべき物質を選定します。環境省環境安全課は「当時は限られた情報から67物質を選んだが、対象物質は新情報に基づき更新する必要がある」と話しています。

資料:2004年11月30日付 毎日新聞

総務箇所 横山 美代子

事業内容

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 環境管理に伴う調査・測定・化学分析 | 5 土壌汚染対策法に基づく土壌汚染状況調査 |
| 2 ダイオキシン類に係る濃度計量証明 | 6 労働衛生管理に伴う作業環境測定 |
| 3 ビル管理に伴う水質検査・空気環境測定 | 7 トータルサニテーション管理 |
| 4 水道法第20条に基づく水質検査 | 8 委託試験・研究・開発 |

